

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果

伊達市教育委員会

○平成26年4月22日（火）に実施した平成26年度全国学力・学習状況調査の北海道における参加状況は、下記のとおりである。

	学校数	児童生徒数
小学校	1,096校	42,951人
中学校	623校	41,772人

○伊達市は、星の丘小・中学校を除いた、小学校9校の6年生 293人、中学校4校の3年生 290人が参加した。

○教科に関する調査内容は、小・中学校とも下記のとおり4教科である。

- ・小学校 主として「知識」に関する問題：国語A・算数A
主として「活用」に関する問題：国語B・算数B
- ・中学校 主として「知識」に関する問題：国語A・数学A
主として「活用」に関する問題：国語B・数学B

○生活習慣や学習環境等に関する調査内容は、下記のとおりである。

- ・児童生徒質問紙調査
- ・学校質問紙調査

○結果分析については、北海道教育委員会が(株)東京書籍に委託して分析を実施した。

それを受け、伊達市の結果分析を実施し、課題を整理した。

○概要

●小学校

- ・平均正答率について、国語A・国語B・算数A・算数Bの4教科いずれも全国より下回っており、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着が必要である。
- ・各学校において、授業改善と生活習慣の確立を車の両輪と位置づけ、領域別の課題についての整理・確認と課題解決に向けた指導改善が必要である。

●中学校

- ・平均正答率について、国語A・国語B・数学A・数学Bの4教科いずれも全国より上回っている。
- ・各学校において、継続して授業改善と生活習慣の確立を車の両輪と位置づけ、全国より下回っている領域別の課題についての整理・確認と課題解決に向けた指導改善が必要である。

I 分析と課題

1 教科

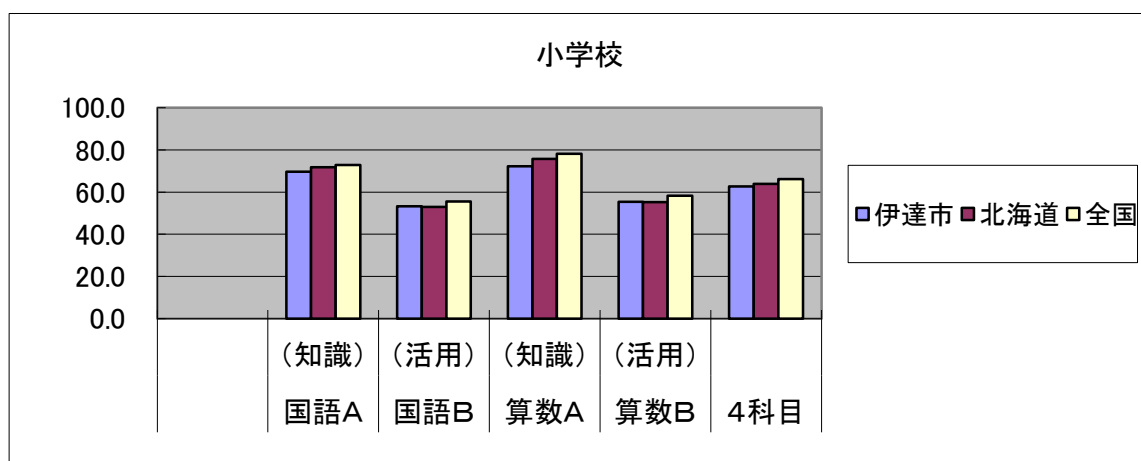
(1) 小学校

- ・平均正答率について、4教科のいずれも全国より下回っており、国語B・算数Bがほぼ北海道と同じ結果となっている。
- ・平均正答率の推移において、平成25年度と比較し、全国との差が国語B・算数Bは縮まった。
- ・国語Aでは平成25年度は全国を上回っていたが今年度は全国を下回り、算数Aも差が広まっており、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着が必要である。
- ・学習指導要領による領域別の平均正答率において、16領域全てが全国より下回っていることから、16領域（国語A：①話すこと・聞くこと、②書くこと、③読むこと、④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、国語B：①話すこと・聞くこと、②書くこと、③読むこと、④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、算数A：①数と計算、②量と測定、③図形、④数量関係、算数B：①数と計算、②量と測定、③図形、④数量関係）について、課題の整理・確認と課題解決に向けた指導改善が必要である。

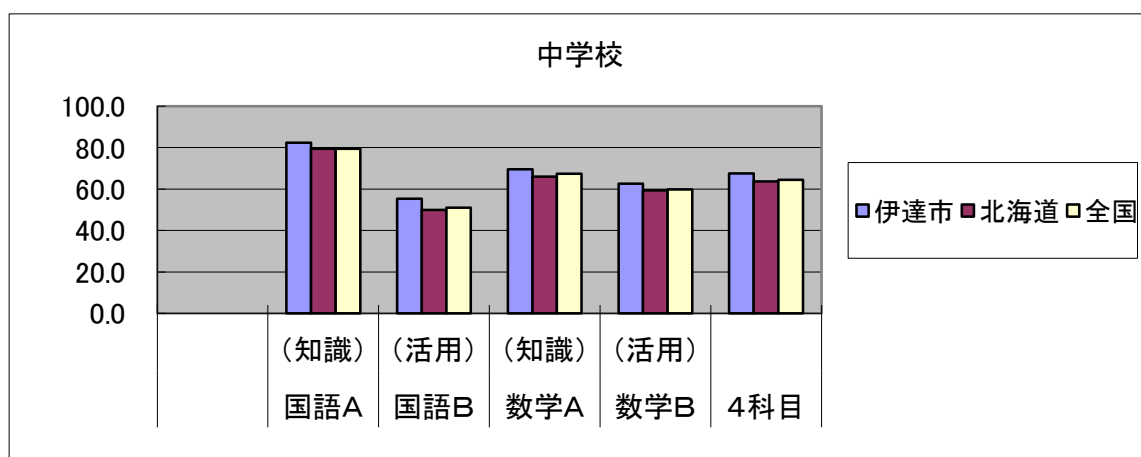
(2) 中学校

- ・平均正答率について、4教科のいずれも全国より上回っている。
- ・平均正答率の推移において、平成25年度と比較し、4教科のいずれも全国より上回っている。
- ・学習指導要領による領域別の平均正答率において、数学A・B（資料の活用）の2領域を除く13領域（国語A：①話すこと・聞くこと、②書くこと、③読むこと、④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、国語B：①書くこと、②読むこと、③伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、数学A：①数と式、②図形、③関数、数学B：①数と式、②図形、③関数）について、全国より上回っている。
- ・数学A・B（資料の活用）2領域について、課題の整理・確認と課題解決に向けた指導改善が必要である。

・平均正答率：単位%



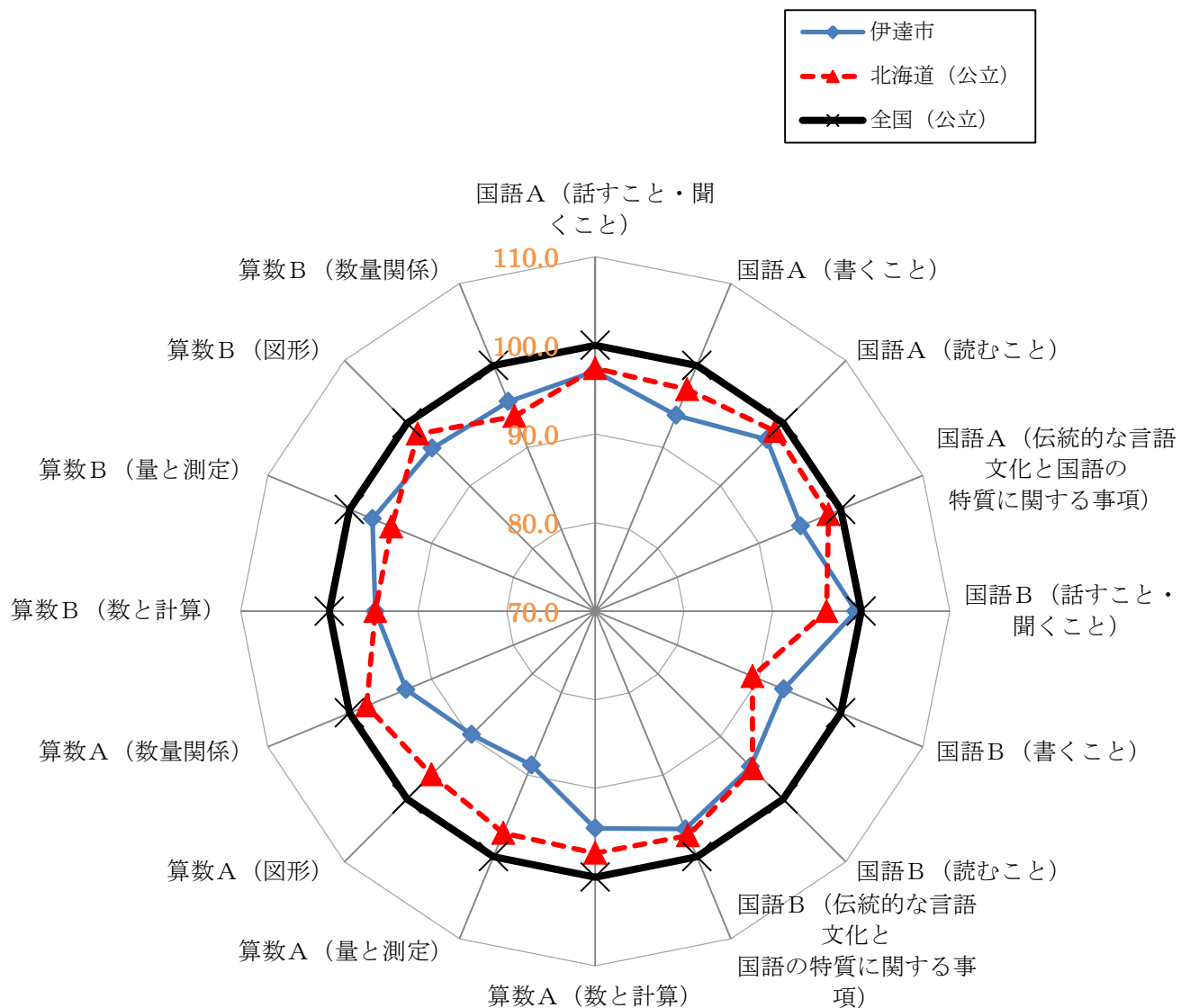
	国語A	国語B	算数A	算数B	4教科
	(知識)	(活用)	(知識)	(活用)	
伊達市	69.7	53.2	72.2	55.3	62.6
北海道	71.8	52.9	75.8	55.2	63.9
全国	72.9	55.5	78.1	58.2	66.2
比較:伊達市-全国	△ 3.2	△ 2.3	△ 5.9	△ 2.9	△ 3.6



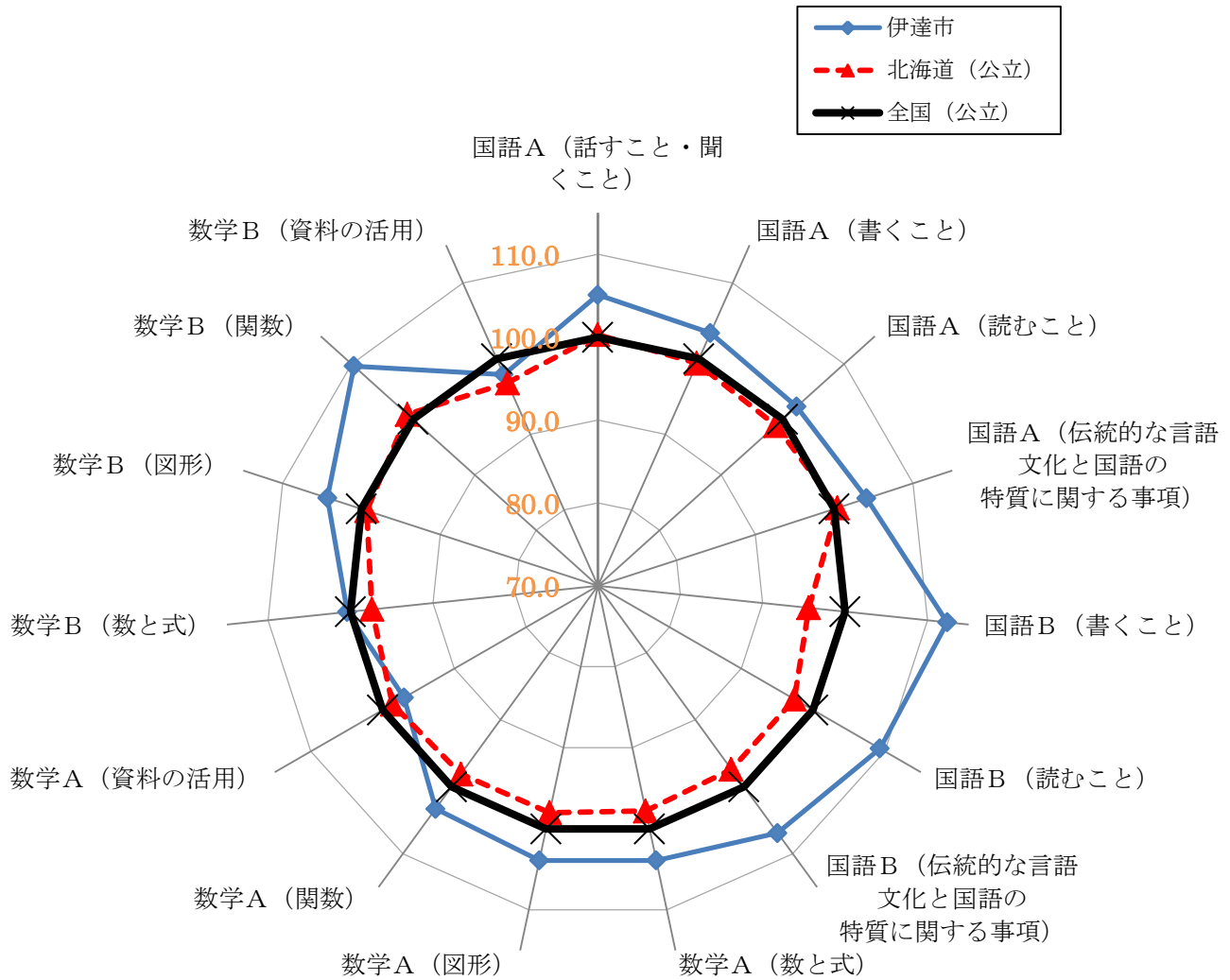
	国語A	国語B	数学A	数学B	4教科
	(知識)	(活用)	(知識)	(活用)	
伊達市	82.4	55.4	69.5	62.6	67.5
北海道	79.4	49.9	66.0	59.4	63.7
全国	79.4	51.0	67.4	59.8	64.4
比較:伊達市-全国	3.0	4.4	2.1	2.9	3.1

・領域別状況：全国を100とした場合、伊達市及び北海道の状況

小学校



中学校



2 児童生徒質問紙調査

(1) 小学校

- ・全国と比較し、「家で、学校の授業の予習をしている」児童は少ないが、「家で、学校の授業の復習をしている」児童は多い。「学習塾（家庭教師含む）に通っていない」児童は多い。
- ・自尊意識、規範意識が低いことから、保護者と連携した自尊意識、規範意識について生活指導が必要である。
- ・「国語・算数の勉強が好き」な児童が少なく、「国語・算数の授業の内容はよく分かる」児童も少ない。また、「読書が好き」な児童が少ないことから、授業の工夫改善が必要である。

(2) 中学校

- ・全国と比較し、「家で、学校の授業の予習をしている」生徒は少ないが、「家で、学校の授業の復習をしている」生徒は多い。「学習塾（家庭教師含む）に通っていない」生徒は多い。
- ・自尊意識、規範意識が高い。
- ・「国語の勉強が好き」な生徒がやや多く、「国語の授業の内容はよく分かる」生徒が多い。また、「読書が好き」な生徒が多い。
- ・「数学の勉強が好き」な生徒が少なく、「数学の授業の内容はよく分かる」生徒も少ないことから、数学の授業の工夫改善が必要である。

3 学校質問紙調査

(1) 小学校

①国語

- ・学校は、全国と比較し、「前年度までに、補充的な学習の指導」や「発展的な学習の指導」を行ったり、「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業」や「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業」などをした割合が低い。
- ・「前年度までに、授業の冒頭で目標を児童に示す活動を計画的に行った」や「前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に行った」割合が低い。
- ・以上のことを踏まえた指導方法の工夫改善が必要である。

②算数

- ・学校は、全国と比較し、「前年度までに、補充的な学習の指導」を行ったり、「前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業」などをした割合が低い。
- ・「前年度までに、授業の冒頭で目標を児童に示す活動を計画的に行った」や「前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に行った」割合が低い。
- ・以上のことを踏まえた指導方法の工夫改善が必要である。

③家庭学習

- ・全国と比較し、児童質問紙調査では「家で、学校の宿題をしている」と答えている児童はほぼ同じであるが、学校質問紙調査では「(国語) 前年度までに、家庭学習の課題(宿題) 与えた」について児童に十分に出していないとなっており、認識に差が見られる。
- ・学校は、「(国語・数学とも) 前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った」にもかかわらず、「(国語・算数とも) 前年度までに、家庭学習の課題について、評価・指導を行った」については十分に行っていないとなっている。また、「前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った」については十分に行っていないことから、保護者と連携した家庭学習の課題の評価・指導について、共通理解の再構築が必要である。

(2) 中学校

①国語

- ・学校は、全国と比較し、「前年度までに、補足的な学習の指導」や「発展的な学習の指導」を行ったり、「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業」や「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業」などを行っている。
- ・「前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に行った」割合は低いことから、改善が必要である。

②数学

- ・学校は、全国と比較し、「補足的な学習の指導」を行ったり、「前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業」などをした割合が低いことから、指導方法の工夫改善が必要である。
- ・「前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に行った」割合は低いことから、改善が必要である。

③家庭学習

- ・全国と比較し、生徒質問紙調査では「家で、学校の宿題をしている」のはほぼ同じであり、学校質問紙調査では「(国語・数学とも) 前年度までに、家庭学習の課題(宿題)」を生徒に与えている。
- ・学校は、「(国語・数学とも) 前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図り」、「前年度までに、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたりしており、「(国語・数学とも) 家庭学習の課題について、評価・指導は全国とほぼ同じように行っている。

Ⅱ 今後に向けて

1 伊達市教育委員会

- (1) 各学校に対して、改善に向けた具体的な取り組みを展開するよう指導
- (2) 各学校に対して「学力・学習改善プラン」の策定について説明
- (3) 各学校の「学力・学習改善プラン」の成果や課題について検証
- (4) 実施主体として、平成26年度伊達市学力テストの実施 12月
- (5) 平成27年度全国学力・学習状況調査に向けた準備

2 市内の各小・中学校

- (1) 各学校における分析・検証
- (2) 保護者・地域への結果概要の公表
- (3) 各学校における改善方策の検討
- (4) 各学校における「学力・学習改善プラン」の策定
- (5) 各学校における「学力・学習改善プラン」の具体的取り組み・実践
- (6) 調査責任者として、平成26年度伊達市学力テストの実施 ※基準日：平成26年12月1日（月）
- (7) 平成27年度全国学力・学習状況調査の実施 ※平成27年4月21日（火）